



みんなて 護ろう文化財

VOL.36
文化財保護委員

浄土寺の大ケヤキと 親世音菩薩

文化財保護委員 中川 竹久

文化財保護委員 中川 竹久



浄土寺の大ケヤキ

一の宮町坂梨福岡地区の浄土寺には、樹高40.5m、幹囲7.4mの大ケヤキがあります。かつて浄土寺にはケヤキの大木が二本あって、弁天木と繁盛木と呼ばれていました。繁盛木は昭和17年に伐採され、現在は弁天木が残っており、昭和52年に旧一の宮町の天然記念物に指定されました。(現在は市指定)

ケヤキの根本には巨石があり、その石に穴をあけ、二体の小さな観音様が安置

されています。地元では『穴観音様』と崇拝され、参拝者も多数あります。観音様は、数年前に一時的に行方不明になり心配されていましたが、今は戻され元の姿で安置されています。



穴観音

ケヤキのある浄土寺は現在無住職の寺であるため、近くの馬場地区円通寺の住職を迎え、地区の関係者で毎年8月4日に本堂で施食会が催されています。この寺は、阿蘇西国三十三ヶ所の第十七番の札所で、本堂には行基の作といわれている観世音菩薩が安置され、両側に木造の十一面観音と千手観音があります。

この観世音菩薩は六十年に一度の御開帳とされ、前回は昭和50年に御開帳の儀式が行われました。



境内の石仏群

また本堂の南側には釈迦一体、毘沙門一体、不動明王一体、菩薩一体、羅漢十五体の計十九体の石像が安置されており、独特の雰囲気を持つ境内となっています。

☆トピックス 郷土の歴史・新発見☆ 「坂梨宿場の力士たち」

豊後街道が通る坂梨地区は、江戸時代には宿場町として栄え、藩主が宿泊休息をとる御茶屋をはじめ、旅人宿・木賃宿・酒造業・薬屋医者等の屋号もちの家が約50数軒、軒を連ねました。

坂梨宿場の繁栄の中で、同地区の馬場八幡宮秋の大祭で開催される相撲大会では、阿蘇郷を始め、熊本各地から大勢の力士たちが集まりました。



阿蘇森傳治の墓

た。設置された貴賓席のすだれ奥には、大相撲の名家・吉田司家当主も度々観覧されたと伝えられています。この度、坂梨地区の活動として地域に残る墓石を調査したところ、これまで四人の力士がこの地から生まれていたことが分かりました。更に調査を進めると力士の一人阿蘇森傳治については、享和二年(1802)五月の大阪相撲番付表で西方前頭十二枚目として掲載されている事も分かりました。坂梨宿場の力士たちは、農閑期を利用して村々の草相撲巡業に参加し、その中から力をつけた者が大阪相撲、京都相撲、江戸相撲の三都を目指したのと思われまます。坂梨小学校相撲部の児童も大会などに際してお参りしており、先輩力士の活躍を偲びつつ、日々の練習に励んでいます。